

(別紙2 - 1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25年 1月 10日

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	4 2 7 1 4 0 1 6 9 9		
法人名	有限会社 なごみ会		
事業所名	グループホーム諏訪の里		
所在地	〒859-1504 長崎県南島原市深江町丁 1 5 2 0 番地		
自己評価作成日	平成 24 年 11 月 24 日	評価結果市町受理日	平成 25 年 3 月 25 日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所一階		
訪問調査日	平成 24 年 12 月 14 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

仰げば普賢岳、眼下には有明海の大海原が広がり風光明媚な場所に位置し、車の通りの少ない散歩コースにも恵まれている。  
お天気やその日の体調に合わせ、出来るだけ外への散策を行うことにより、地域の方々とのふれあいもあり”ホームの人”ではなく地域の方々と同じ住民であることを隔たりなく理解して下さる事を切望している。  
家族の方の同意を得ながら、市の行事や祭事など何処にでも連れ出し、ノーマライゼーションの浸透にも努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点 (評価機関記入)】

長年、高齢者施設の生活相談員として勤務した管理者はその経験を随所に活かし、「やたら手を出さない」ことをモットーに自立支援を基本とする支援を行っている。訪問者に対し利用者が豊かな表情を向け笑顔で話し掛けてくれる姿が印象的で、日々の生活の安心感を察することができた。また管理者は豊富な経験があることから、他の事業所から運営の相談を受けるなど、地域のリーダー的存在で事業所は入居者に留まらず近隣の方の高齢者福祉についても相談窓口としての役割を果たしていきたいと抱負を示し高い志が窺われる。日々邁進する管理者や職員の姿はバイタリティーに溢れており地域生活の継続支援の拠点事業所として、益々期待がもてるホームである。

## 1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<b>理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『地域の中で輝き共に生き支えあえる環境づくり』を理念として掲げ、個々の出来ないところをさりげないサポートで自立を助けることを実践している	地域や人との繋がり、関係性を大事にしたいと考えており、また敷地内の畑で季節ごとの野菜作りを通し、できることは自分で・できない部分はできる方が補う姿があり、利用者同士がお互いに支えあう支援がなされている。	
2	2	<b>事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	幸いにも近隣の方々のご理解も年々深まり、気軽に声かけをして頂いたり、近隣の散歩へ出掛けると農作業の途中でも、手を止めて話しかけて下さる。また収穫された物をご好意により頂戴することも有る。	管理者は近隣とお付き合いを大事にしたいと強い認識があり、普段から自家栽培の野菜を近隣に届け市民清掃に利用者と職員が参加するなど利用者と地域とが顔なじみの関係ができています。いざという時も地域の方から声かけして頂き理解と協力が得られている。	
3		<b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の方を多くお預かりしていることもあり、地域の皆さんの相談をお受けすることもある。自治会長さんや民生委員の方と連絡をとりあったり支援方法を一緒に考えた実績もある。		
4	3	<b>運営推進会議を活かした取組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	個人情報には十分配慮をしながらも利用者の実際の状況やケアについての取組みなどを報告し参加して頂いた方からの意見や情報提供なども大切に情報交換を質の向上に取り組んでいる。	会議では事業所の現状や取組み、また思いなどを具体的に伝え、また災害時の避難対策での行政との連携、近隣の高齢者の状況や関わり等、多岐にわたり活発な意見が出され有意義な会議となっている。	
5	4	<b>市町との連携</b> 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	島原半島GH連絡協議会を中心に、特に南島原支部では活発に研修などへも取組み相互の情報交換なども行い、協力体制に取り組んでいる。	地域の拠点として利用者家族だけに留まらず、近隣住民の相談で独居の方を地域包括支援センターに繋げた実績もあり、地域の相談役になり困っている方と行政との橋渡しの役割を担っていきたいと考えている。	

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>絶対的に拘束をしない方針でケアの実践を行っている。たとえ、暴力行為などをスタッフが受けても落ち着かれるまで目を離さず身体拘束のないケアをしている。言葉遣いにも配慮している。</p>	<p>身体拘束は絶対に行わないとの強い認識を持っており、帰宅願望や徘徊される方に対しては落ち着き納得して頂くまで根気よく見守ることや、拘束しないことから生じるリスクを常に考えながら対処している。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待については、これまで全く事業所内で起こった事実はない。スタッフにおいては、逆に利用者からの暴言・暴力を受けることが多々ある。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域福祉権利擁護事業が必要となられた事例もあり、独自の研修も行っている。自己学習が出来るような資料もスタッフに提供している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項や運営規定などの必要書類を十分に説明し、理解・納得の上で署名捺印をして頂いている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意思表示が出来る利用者からの意見、不満、苦情については十分に傾聴し、誤解や語弊のないように説明をしているが、認知症の進行状態では、説明をしても理解をして頂けない場合も多い。</p>	<p>日頃から家族との信頼関係を大事にし、面会の際には「何かあれば言って頂きたい」と要望にはその都度対処し改善に繋げている。家族への便りでもホームの意向を表示しながら傾聴の姿勢を大事に考えている。</p>	<p>家族を大事にするという高い意識が感じられる。今後は、変化する要望を的確に把握するためにも、家族や本人の満足度の確認作業を実施し、現状に留まらず自ら課題を具体化する事でより優れたホームとなる事を期待したい。</p>
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員には、常に意見や提案があれば、その都度申し出てくれるように話をし、職員会議やケア会議でも意見を聞き検討をしている。</p>	<p>業務や処遇面に関して常に話し合いがなされている。ベテランの職員が新人職員にノウハウを伝えお互いに言葉を掛け合い、利用者にとってより安心安楽なものとなるよう支援の実践に繋がっている。</p>	

12	<p><b>就業環境の整備</b></p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員個々の努力や実績、勤務態度等を把握した上ででの給与水準にしており、スキルアップも支援している。職員が勤務しやすい時間等の相談に応じている。</p>		
13	<p><b>職員を育てる取組み</b></p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修には、参加を促進しており、人員配置の関係上、全員が一度に同じ研修を受けることは難しいので、研修を受けた者が必ず報告をし、知識の共有を図りながら、新人の教育にも努めている。</p>		
14	<p><b>同業者との交流を通じた向上</b></p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>島半島GH連絡協議会を中心に、特に南島原支部の研修会などへも積極的に参加し交流を持ちながら共に学び研鑽を高めている。</p>		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	<p><b>初期に築く本人との信頼関係</b></p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所される前に、ご本人と向き合い何うようにしているが、認知症の進行状況次第では、難しい場合も有る。 その場合はご家族からお話を伺っている</p>		
16	<p><b>初期に築く家族等との信頼関係</b></p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用までの経緯やその方の生活歴、ご家族の希望などは必ず入所前に何うようにしている。また、入所後にもその都度、何うようにしておりケアプラン作成時にも相談し十分納得した上で、サインを頂いている。</p>		
17	<p><b>初期対応の見極めと支援</b></p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>居宅の担当者も含め、その方のニーズを見極めながら入所がいいのか、または他のサービス（通所など）がいいのかを、事前によく話し合うようにしている。</p>		

18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本来の家族のように、日常生活において一緒に生活をする中で、喜怒哀楽を共にし、利用者から昔話や歌や知恵などを引き出し、そして学び、出来ないところを支援していくようにしている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えている関係を築いている</p>	<p>ご家族の協力なしでは、成し得ないことであり、行事への参加お願いしたり、面会時にもゆっくり過ごしてもらえる様に支援をしている。</p> <p>また、日々の暮らしや心身のケアに至るまで相談をしながら支援している。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうち、支援に努めている</p>	<p>ご家族の同伴による外出や外泊に加え、ホームからスタッフが同行して屋外へ外出したり、散歩したりすることで利用者の視野がホーム内だけに留まらないように気をつけ支援している。</p>	<p>希望があれば事業所支援で自宅まで送迎し、一時帰宅で家族と食事を楽しみ、法事に参加する事もある。遠方に住む娘からの手紙を受け取り、心の交流を楽しみにしている姿を感じる事も出来た。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>日中は利用者皆さんに、楽しんで出来る体操やレクへの参加を促し、居室に閉じこもらないように声かけしている。</p> <p>利用者同士も交流が持てるようにスタッフが潤滑剤の役割になるように努めている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス利用（契約）が終了しても、ご家族の精神的不安にも配慮しいつでも相談していただけるよう、気軽に連絡をして頂ける体制を取っている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>居宅の担当者や本人やご家族からの聞き取りにて生活歴や生活環境、サービス利用の経過等についても把握するようにしている。</p>	<p>利用者の残された記憶を大事にし、その方に寄り添う支援がなされている。慰問の際には役職をされていた方に利用者代表の挨拶を依頼し、凜とした姿からその方の生きざまを受け止め今後の支援に繋げている。</p>	

24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>居宅の担当者や本人やご家族からの聞き取りにて生活歴や生活環境、サービス利用の経過等についても把握するようにしている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>毎月の職員会議において、全員で検討し総合的に把握するようにしている。</p> <p>状態変化があれば、その都度話し合うようにしている。</p>		
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族からの希望を取り入れながらケアプランに同意を頂き作成している。</p> <p>ケア会議等で職員全員の視点で、おひとりずつ検討する機会を設けている。</p> <p>また入所時や状態変化による見直しなども臨機応変に対応している</p>	<p>日々の記録の中に介護計画の目標や実践状況が詳細に記載され、支援内容の意識付けが明確になされている。</p> <p>その方の記憶の中に残る「役に立ちたい」という部分を引き出し役割を持つことで生き生きとした生活に繋がるよう支援がなされている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>全員が、毎日のケア記録に目を通し確実な申し送りを記録として残しながら、情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人やご家族の状況、その時々々の要望に応じてサービスの変更が可能である。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>近隣の方々の協力体制や民生委員さんとの交流、特に年一度の総合避難訓練においては、消防や消防設備会社の方々の協力を頂いている。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している</p>	<p>利用者それぞれの主治医との連携を取りながらも、緊急時の対応などが出来るように支援している。</p> <p>中には訪問看護の利用者もおり適切な医療のバックアップ体制も支援している。</p>	<p>事業所よりかかりつけ医との定期受診の支援が行われ、医療連携体制による訪問看護を受けより細やかな健康管理がなされている。小さな変化にも迅速に対応しその都度報告していることで、家族からは安心感と信頼を得られている。</p>	

31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携体制を取り、週に1回は必ず看護師が利用者の健康状態を把握するようにしている。</p> <p>また、職員にも看護師を配置している。</p> <p>中には訪問看護の利用者もあり適切な医療のバックアップ体制も支援している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>特に協力医療機関で有る、泉川病院においては地域連携室が設けてあり、利用者の状態や早期退院に向けての情報交換や相談に努めている</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化及び終末期に向けた指針を作成しており、本人やご家族にも説明の上、同意を得て書面として残している。</p> <p>ホームで出来る限りのケアを主治医の指示のもと行うが、医療的な処置が必要である場合は、本人やご家族と主治医を交えての相談を行う。</p>	<p>看取りに関する思いを事業所便りで伝えており、状況を見極めたうえで家族や医療、地域包括支援の職員を交え話し合いの場を設けたこともある。どこで看取るのがその人にとって一番いいのかを共に考え、家族希望にて事業所で看取りを行ったこともある。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署の救急救命士の救命救急講習を受けており、急変や事故発生時に対応できるよう備えている。</p> <p>消防署主催の救命講習会や自衛消防隊へも参加し、訓練を受けている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>島原消防署及び地元消防団、消火機器業者、近隣の方々の協力を頂きながら行う、総合避難訓練に加え、自主避難訓練を行い日ごろよりの災害対策に取り組んでいる。</p>	<p>普賢岳災害の経験から、災害対策への意識が強く備蓄品や避難場所の準備も整い、日頃の反復訓練も大事にしている。地域への非常ベルも設置され実際に鳴らす訓練もなされており地域の協力や理解が得られている。</p>	

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応については、出来るだけの配慮をしている。また、記録については一冊にケア記録として綴りを作成しているが、個別に記録を取っている。	安心感を感じて頂くように方言を使ったりその人に失礼がない事を意識した言葉かけを行っている。人生の経験者として尊厳を大事にし、実際に職員が気になる言葉かけを耳にした際はお互いに注意し意識するようにしている。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の掃除や体操のほか、日常生活においても出来る事は声かけし働きかけながら自己決定の支援に努めている。	
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の行動は、一人ひとりのペースを大切に出来る限り希望に添っての支援に努めている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者からの申し出には随時対応し、その方に応じて美容室または理容室までの付き添い介助をしている。自ら訴えの出来ない方についてはスタッフが整容に努めている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは決めておらず、自家栽培の旬の野菜などを取り入れ、食材の刻みを手伝って頂いたりして準備に取り組んでいる。片付けにおいても、職員だけで行わず協力をして頂くように声かけをしている。	茶豆やさつま芋など季節野菜を栽培し、手入れから収穫、調理にいたるまでを自分達の仕事とし、残された記憶とその瞬間の笑顔を大切に支援の実践がされている。食事中に「美味しい」という言葉が聞こえ安らぎ楽しむ姿が窺えた。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に応じた提供が出来るようスタッフ全員が配慮しながら支援をしている。食事等の摂取状態は毎食記録し、特記が必要な場合も記録に残している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは日常的に支援しており、義歯については洗浄など、管理が出来ない方についてはスタッフがお預かりし清潔保持に心がけている。	



43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>24時間365日の排泄チェック表を記録しており、出来るだけ一人ひとりの排泄パターンをつかみ、トイレ誘導を行うなど失禁やおむつ使用の軽減に努めている。</p>	<p>ポータブルトイレを使用しない方針から、夜間帯も職員が付き添いトイレ誘導し、自立支援に向け取り組んでいる。歩行や起立訓練の実施により蠕動運動を刺激し自然排便にも繋がっている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>健康食を心がけ、水分の摂取量も考慮し食事においても食物繊維を多く取り入れている。また1日の中で腸の働きを促すよう適度な運動を行って頂いている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>週4日の入浴日の内、最低週2回の入浴が出来るように、利用者の体調や希望・タイミングをみて支援している。</p>	<p>入浴日以外にも最低1日2回以上の清拭を実施し清潔保持や尿路感染症の防止に気をつけている。失禁時には使い捨てのウエスを使用し、毎食後の義歯洗浄を行うことで臭気への配慮がなされている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>全室個室になっているので、いつでも居室で休息が取れるようにしており、また共有の部分に畳の間もあり、自由に使用していただけるようにしている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>利用者の主治医からの指導と薬局からの文献を元に、個別にファイルをし、スタッフ全員が把握し、利用者の能力に応じて服薬の支援を行っている。</p>		

48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入所時に事前にそれまでの生活歴や趣味などをお聞きし、入所されてからの暮らしに活かせるよう努めている。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天気や体調をみて、屋外への散歩などへスタッフが付き添い出掛けられるように支援している。</p> <p>事故防止のため、1人での外出は出来ない。</p>	<p>季節ごとに花の見物に出かけたり地域の祭りに足を運び、買い物や回転焼きを楽しむなど楽しむ支援がなされている。畑仕事や近隣を散歩が日常的に行われていることで思い思いに過ごされる姿が窺える。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>普段は事務所にてお預かりしているが、外出時にお金が必要な場合は利用者の状態に応じて職員が所持している場合もある。ただし、現在は金銭管理が出来る方がいらっしやらない</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>利用者の状態に応じたの支援を行っている。現在までの利用者で自らTELを出来る方は少なく、取次ぎにて支援していた。また、手紙のやり取りについても郵便の受け渡しは行ってきた。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>住宅街ではあるが、特に不快な音はなく夏にはヨシズにて涼を取り、暗くならないように採光にも心がけている。</p> <p>四季折々の花を飾り、安らぎのある居心地の良い環境作りに取り組んでいる。</p>	<p>日中利用者が過ごすホールからは利用者にとって馴染み深い、有明海を見渡せ風景の変化から季節の移ろいを感じることができる。掃除が行き届いたホーム内は不快な臭いを全く感じることなく快適に過ごされている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>東側廊下の端は、眼下に有明海を展望でき好んで過ごされるので、安全面にも配慮し居心地の良いスペースを提供している。ホールや畳の間もあり、自由にくつろげる場となっている。一人になりたい場合は、全個室なので自室で過ごす事が出来る。</p>		

54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者からの希望が難しい方については、ご家族と相談をしながら持ち込みをして頂いている。	和ダンスやお仏壇、家族の写真や本人の作品など利用者思い思いの調度品が持ち込まれている。毎朝お仏飯を供え、仏壇に向かってお経を読み上げるなどと利用者にとって安らぎの空間の配慮がなされていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の各所に手すりを設置したバリアフリーの建物で、利用者の目線に合わせたトイレやお風呂の入口に目印をし、危険物についてはスタッフで管理しながらも自由に出入できる環境づくりを行っている。		

アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない